資料３

施策の具体化向けた課題について

１　地域木材生産連絡調整会議における課題

【現状】

○府内４地域において、府有林、市町村有林などの公有林を中心としてモデル的に木材生産団地を設定し、協業の検証や、見える化のサポートセンターとの連携方法について検討していく。

【課題】

○サポートセンター開設後、木材生産者との連携をとり、木材の生産に向けた取り組み進めていくためには、どのような組織体制とするのか検討が必要である。

○皆伐を計画している地域が少なく、また、協業する林業事業体が少ない地域もあることから木材生産団地の設定が進まないことが懸念されるため、皆伐・再造林一貫施業による低コスト化に加えた、資源の循環を図るための仕組みづくりが必要である。

２　協業による一貫施業における課題

（１）府内における協業の課題

【現状】

・府内における事業体間の協業については、主伐、間伐、作業道開設等において実施されている。

・しかし、協業による皆伐・再造林の一貫施業については、実績はない。

【課題】

・協業による皆伐・再造林一貫施業の実施については、伐採時期と植栽のタイミングを合わすなど事業者間の意思疎通が必要であるが、一貫施業に対する情報や経験が少ないことからうまく調整することが困難である。

（２）府有林における課題

【現状】

・府有林の伐採は、契約に基づき行われ、再造林は地権者が行うこととなるため、一貫施業で発注することが困難な状況。

・今年度には、南丹市園部町の府有林において、協業による伐採・植栽一貫施業モデル的に実施する予定である。

【課題】

・現行の府が皆伐後に所有者が植栽する仕組みでは、一貫施業の実施が困難なため、皆伐・再造林をセットで発注するなど新たな仕組み作りが必要。

３　木材需給のマッチングに向けた課題

（１）品質別の需給状況の整理

【現状】

〔製材用（A 材）〕

・需要者は複数。一部需要者は１年間の需要情報（価格、品質、量）を提示。

・その他の需要情報は木材市場、ストックヤードで行われる市売り・買付時に明らかになる（見えていない）。

・供給側は需要情報を事前に把握することができず、需要に応じた供給ができない（マッチングしてない）。

〔合板用（B 材）〕

・需要者が１年間の需要情報（価格、品質、量）を提示（見える化）。

・需要情報が事前に見えているため、供給側は需要に応じた供給が可能（マッチング）。

〔チップ用（C 材）〕

・需要情報のうち量しか問われない。

【課題】

・特に製材用の流通形態に関してマッチングを図る新たな仕組みを検討することが必要。

（２）需要者ニーズの把握

需要者である木材加工業者がどのような供給形態を望んでいるのか整理する必要。

○品質よりは価格、量が安定した木材を直接入手することを重視しているのか（例：府森連とりまとめによる直送）。

○適寸で品質が確かなものを都度、現物を確認した上で確実に入手することを重視しているのか（木材市場、ストックヤードの活用）。

（３）既存流通を踏まえた、望ましいマッチング形態の整理

○木材市場、直送等の現状を踏まえた需要情報を集約し、供給調整する仕組みの検討

【現状】

○府森連取りまとめによる直送

→需要情報が事前に把握できるので、需要に応じた供給が可能となっている。

○木材市場による競り売り

→需要情報は事前に把握しにくいが、供給情報を集約することで結果的に需要に応じた供給がし易くなる。

（４）将来の姿を見据えた当面の課題整理